



トップ

速報

映像

個人

特集

意識調査

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

夫が倒れて20年…仕事と介護の両立に55歳で出した答えは起業

6/13(木) 11:04配信

FLASH

人生100年時代といわれる。実際にそうなった場合、いったいどれだけの人が親や夫、妻の介護で苦しむことになるのか、つい考えてしまう。松本タカ子さん（66）は、2歳年上の夫の介護を20年間続けてきた。



Copyright (C) 2019 Kobunsha Co., Ltd. All Rights Reserved.

その一方で仕事を続け、10年前には中高年の人材を派遣する会社を設立した。人生の転機をもたらした介護と経営。両立が難しそうな両者を、どのように続けてきたのか。

「主人が倒れたのは1999年4月、私が45歳のとき。大学生の息子と、短大生の娘の最後の学費を、主人と2人で振り込みに行った日でした。

子供の教育費を払い終えたことを祝うため、家族4人で夕食をとろうとしたそのとき、主人の様子がおかしい。『どうしたの?』と尋ねた瞬間、床に崩れ落ちたんです」

救急車を呼び、救急病院へ。脳内出血と診断されたが、症状が重く、対応ができない。再び救急車で東京女子医科大学病院へ。すぐに集中治療室へ搬送された。しかし、左脳の出血箇所が脳幹に近く、手術ができなかった。

幸いなことに右脳そのほかに出血はなく、命に別状はなかった。

「2日後に、集中治療室から個室へ移りました。先生からは、『寝たきりか、よくても車椅子の生活になる可能性がある』と告げられました。もっと軽いと考えていたので、ショックを受けた私を見て、先生は『リハビリで機能の改善が見込まれますので、リハビリをしっかりとやるのが大事です』。リハビリ!？」

45歳からの自分の人生を、夫の介護だけで終わらせたくはなかった。リハビリに関する本を何冊も買い、学んだ。どの本にも、発症後6カ月間が、機能回復の勝負どころと書かれていた。主治医にも、同じことを言われた。

こうして松本さんの、夫に対する厳しいリハビリ生活が始まった。

「病院のリハビリ時間は1、2時間程度で、あとはベッドで休んでいる。時間がもったいない。車椅子に乗せて、病院内を散歩。エレベーターに乗ったら、行き先階の

ボタンを押させたり、売店でお茶を買うときは、ひとりで買わせるようにしました。

リハビリを始めた当初、夫は声が出せなかった。『いいから言いなさい』と言うと、『アー、ウー』と声を絞り出す。『次は、ジュース、ジュースと言って！』……という具合に、根気よく声を出させました。やらなければ回復しません。

病気のせいだとわかっていても、ガーンと言いました。でも数分後にはボケーンとして、夫はアハハとテレビを見ている。ストレスが溜まりました」

1カ月後、リハビリに専念するために東京都立大塚病院へ転院。努力が実り、車椅子を使わずにタクシーで移動でき、転院先では驚かれた。

夫の介護と並行して、派遣社員として10年間働いた。

「働かなければ生活ができなかったし、そのころには夫の介護も、つきっきりでやる必要がなくなっていました」

松本さんは、秋田県の高校を卒業後に上京し、金融機関に就職した。育児休暇を取ったりはしたが、夫が倒れるまで勤め上げ、豊富なキャリアを持っていた。

派遣社員は時間の融通がきき、しかも身内の事情を説明しなくてすんだ。夫の介護があると言うと、色眼鏡で見られることがあった。その後、中高年の人材派遣業に関わっていたが、紆余曲折あってその会社を離れることになった。

それが転機となり、2008年、55歳のときに起業した。そのころは、リーマン・ショックの真っただ中だった。

「最初は、事業計画もありませんでした。会社を設立したいчばんの理由は、主人をリハビリに連れていきながら、自由に時間を使えるからです」

松本さんが立ち上げた会社は、中高年の人材派遣、事務代行、職業紹介、レンタルオフィスの運営など、手広く事業を展開している。

2019年3月に、夫の介護体験を綴った『五粒の涙』（幻冬舎）を上梓した。それを読むと、松本さんにとって介護と経営は、両立しがたいものではなく、表裏一体のものだったことがよくわかる。さて、ご主人の近況は……。

「『要介護2』から、今は『要支援2』にまで回復しました。立って歩けますし、動かせる左手で、茶碗も洗えます」

介護と経営の両立。世の中には、見事な人がいるものだ。



774 | 6/13(木) 13:05



愛情があふれたお話ですね。

年齢が年齢なので、自分にこの方のような対応ができるか？を考えてしまいます。

▼ 返信

0



160



13



mini | 6/13(木) 12:52



奥様に感謝ですね。しっかりした、良い奥様です。これぞ夫婦、結婚だと思えます。

▼ 返信

0



104



8



bbg***** | 6/19(水) 0:13



強いですね。病気だからって、大事を取っていたら、今でも寝たきりのままだったかも知れませんね。・・・人間の体は、楽すると衰えるそうです。キツイ、重い、などの負荷を与える事で、筋肉が付き、脳も活性化する。そうですよ(^^)♪

▼ 返信

0



11



2



あ | 6/13(木) 12:06



奥様、凄い。

▼ 返信

0



71



4



vys***** | 6/18(火) 22:56



奥さまが無能な方で貧困家庭ならば、偽装離婚して夫には生活保護で入院してもらうしか無いと思う。奥さんが優秀だから起業出来た訳だし。30歳のホステスで実家は市営住宅で63歳の父親が脳梗塞で半身麻痺、母は離婚して家を出て行き、弟2人居るけどバラバラに住んでいて自分だけ脳梗塞の半身麻痺の父親と市営住宅にずっと住んでいる。預金貯めないと、普通の仕事では、介護倒れしてしまう、電車で出勤して最終電車で帰宅する子だった。私は結婚は一生多分無理だと思うと言っていた。弟もお金貸してよとかも頼んで来たりもするし。

▼ 返信

0



▼ 0

👍 3 🗨️ 3



hap***** | 6/13(木) 14:59

□

すごい…書籍、今度読んでみます

▼ 返信 0

👍 15 🗨️ 2



jun***** | 6/13(木) 16:40

□

凄い奥さまです。

▼ 返信 0

👍 19 🗨️ 3



Let's go to vote ! | 6/13(木) 11:39

...

ご主人が軽度でしたから出来たかと思いますが、これが重度でしたら…、とは言え凄い奥様であることに変わりありません。

▲ 返信 4

👍 306 🗨️ 55



kiy***** | 6/13(木) 13:33

...

全然軽度ではないと思う。
一生寝たきりになっても不思議ではない。
そうならなかったのは運である以上に奥様の努力。

👍 43 🗨️ 2



* | 6/18(火) 20:56

...

この奥さんは本当にすごい。
リハビリにモチベーションが持てず比較的軽度ですんだはずの脳の障害で拘縮とかまで起きて辛い人生になるひともいる。
病院だけではリハビリしきれないところがあるのを奥さんが頑張ったからこそ動けるようになっている。

👍 53 🗨️ 1



はる | 6/18(火) 23:13

...

コメ主は何をもって軽度とか言っているのだろうか（笑）こいつも思慮の浅い田吾作なんだろうな。
肥溜めとか家の近所にありそう（笑）

👍 16 🗨️ 11



kuk***** | 6/19(水) 8:37

...

要介護2から要支援2までするのってすさまじい努力じゃないのかなあ
しかも40代で発症して、そこからの介護&仕事って並大抵の努力ではない。そして奥さんはかなり聡明な方なんだと思うよ

👍 10 🗨️ 1